令和５年度　学力・学習状況調査　分析

令和６年　３月２１日

船橋市立芝山西小学校

国語

〇成果

・「A 話すこと・聞くこと」「C 読むこと」から、話し手が伝えたいことの中心を捉え、目的に応じて文章と図表等を結びつけるなどして情報を見付けることができている。

●課題

・問題形式別に見ると、特に「記述式」の項目の正答率が低く、書くことに慣れる指導が必要である。

・「B 書くこと」に関する設問に対して、ポイントが下がっている。各教科において書く活動に力を入れ、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するなど、書くことに抵抗がないようにする必要がある。

算数

〇成果

・「データの活用」に関して大幅にポイントが高くなっている。表やグラフから条件に合った数を読み取ることに長けており、この項目に関しては、様々な問題形式に対応することができている。

●課題

・領域別に見ると、「変化と関係」の領域が他領域よりも低い数値となっている。伴って変わる２つの数量の関係についての問題を生活と結びつけて考えることが必要である。

・問題形式別に見ると、「記述式」の項目の正答率が低く、書くことに慣れる指導が必要である。

質問紙（学習状況調査）

〇成果

・「自己有用感」に関わる設問に関しては、「自分によいところがある」・「先生はよいところを認めてくれる」という設問で９割の児童が肯定的に捉えている。児童と教員との関係づくりが良好であると言える結果であるが、否定的な意見を持つ児童にも目を向けていかなければならない。

・ICT 機器に関わる設問では、県・全国のポイントを上回っていることが多い。本校教員が、積極的に機器を授業に取り入れようと努力しているといえる結果である。

●課題

・「５年生までの授業を活用する」設問では、肯定的に捉えている児童が６割と少ない。既習を生かしながら学習していくことを、教員がより意識して授業づくりを行うことが必要である。